

環境経営レポート



第19版

活動期間 2023年1月～2023年12月

発行日 2024年9月5日

ごあいさつ

本環境活動レポートは、2023年1月から2023年12月までの1年間の活動結果をまとめたものです。

当社は平成15年1月に設立以来、各種測定、及び分析業務を中心とした「地球環境の保全」に向けた業務を展開しております。2004年10月より、環境負荷のパフォーマンスの管理、ならびに評価などエコアクション21の取組を行い始め、今回第19版の発行となり得ました。

エコアクション21の活動を通じてお客様へのサービス向上を目指しつつ、更なる管理体制の強化に努めたく思います。これからもお客様をはじめ、皆様のご理解とご指導、ご支援を心からお願い申し上げます。

2024年1月24日

代表取締役社長 濱川 和之

1. 事業所の概要

- ◆代表取締役社長 濱川 和之
- ◆会社名 西日本環境技研株式会社
- ◆所在地 〒886-0001 宮崎県小林市東方3771-3
TEL 0984(23)4562
FAX 0984(23)4895
ホームページアドレス <http://www.nk-giken.com>
e-mailアドレス info@nk-giken.com
- ◆環境保全関係の
責任者及び担当者 環境管理責任者 富田 恵里
事業部責任者 濱川 和之
エコアクション21担当者 吉村 孝文
- ◆事業内容 環境分析／化学物質分析／大気，水質，海洋，土壌などにかかわる各種濃度の測定／廃棄物処理及びリサイクルに関するコンサルタント業務／産業廃棄物，一般廃棄物に係る各種濃度の測定／環境アセスメント／作業環境測定
- ◆事業規模 従業員数 10名(パート従業員2名を含む)
事業所面積 418m²
車両所有台数 5台
- ◆認証の対象範囲 全社

2. 環境方針

◆基本理念

私たちは、緑豊かな地球環境の保全と、次世代へ健全な環境を引き継ぐことを基本理念とし、経営者及び全社員が取り組む。また、協力会社へもその主旨を理解してもらい、当社理念を推進する。

◆環境方針

当社は「基本理念」に基づき、事業活動における様々な環境負荷を軽減するための活動に積極的に取り組むとともに、環境測定と分析・測定活動を伴う各種コンサルティング業務を通じて「地球環境の保全」に貢献します。

1.現在及び将来の事業活動における環境影響を捉え、その結果から環境目標を定め、継続的な改善と環境の保全に努めます。

2.適用される法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。

3.設定した環境目標達成に向けて、E M Sの運用状況を把握し、経営者による全体の評価と定期的な見直しを行い、継続的改善に取り組めます。

4.省資源、省エネルギー、廃棄物の削減など、環境負荷の低減に努め、作業の効率化を推進します。

5.全社員で環境方針を共有し、E A 2 1 E M Sの要求事項に沿った活動を推進します。

6.グリーン購入促進の為、「環境物品等の調達に関する基本方針」に則った製品の購入を推進します。

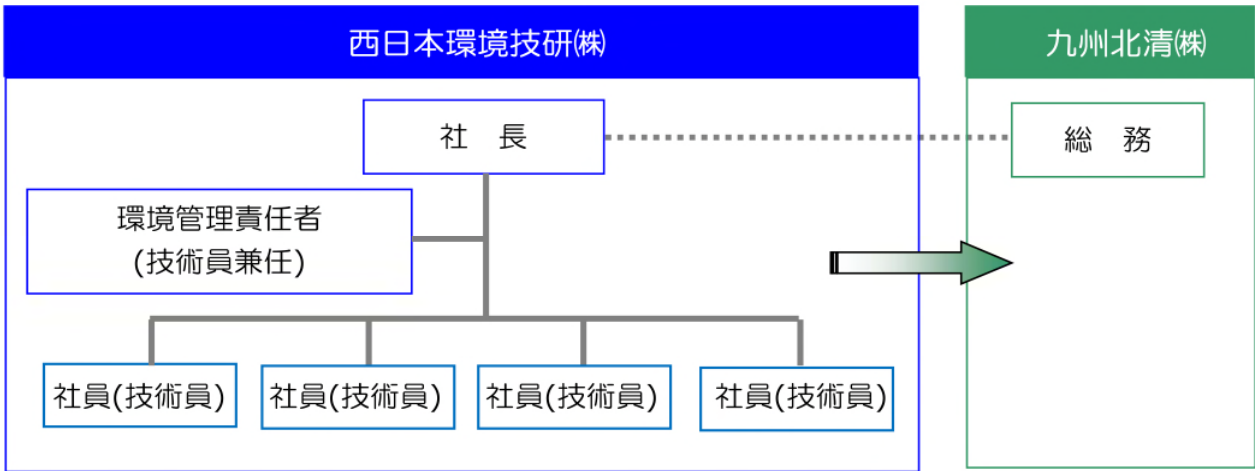
変更履歴	内容
2013年5月	環境方針追加の為
2016年4月	取締役社長退任の為
2019年5月	環境方針修正の為
2022年12月	取締役社長就任の為

(この環境方針は、社外に公開します。)

2022年12月1日
代表取締役社長 濱川 和之

3. 環境管理体制

◆体制(2022.12.1)



◆責任及び権限

役職	担当者名	責任及び権限	行動手順
代表者	濱川社長	環境管理委員会からの報告を受け、全体の評価と環境方針、実施体制の見直しを行う。	新年度の取組みに際し、全従業員へ喝を入れる
		環境管理責任者をはじめ各担当に環境への取組みに関する権限と責任を与える	環境管理委員会から報告を受け、全体の評価と見直しを行う
		社会へのコミットメントを行う。	環境方針、実施体制の見直し、是正を行う。
環境管理責任者	富田課長	全社員にエコアクション21を運営し、実行させる権限を持ち、その行動の責任を担う	取組み自己チェックを行い、月例会議で報告する。
			次年度の環境目標、行動計画を設定する
			環境目標の設定・見直し
		エコアクション21担当者からの文書記録の確認を行う。	主な環境活動計画の設定・見直し
			1年間の取組み状況及び問題点の是正、次年度計画について代表者へ報告を行う
エコアクション21責任者	吉村主任	エコアクション21の運営におけるスケジュール管理を行う。	環境関連法令の遵守状況チェックを行う
			教育・訓練の年間計画を決定する
			運用手順書の見直しを行う
			緊急事態への準備及び対応
		各担当者より提出された報告書についての取りまとめを行う。	想定した緊急事態の試行、訓練の計画
			各担当者より、負荷の集計、取組み状況の報告を受け、軌道修正やアドバイスを行う
			各担当者から受けた報告を元に月例会議で全員へ状況報告を行う。
			環境活動レポートのとりまとめ、仮発行する。

4. 環境経営目標

◆2023年度 環境経営目標

- ① 受注1件当りのCO₂排出量を－1.0%とする。
- ② 環境への取組の自己チェックの総活動取組を＋1.0%とする。
- ③ 率先して、エコ商品の購入を推進する。
- ④ 事業系一般廃棄物の排出量を－1.0%とする。
- ⑤ 受注1件当りの水使用量を－1.0%とする。
- ⑥ 廃棄物の削減を図る。適正管理の実施
- ⑦ 化学物質の適正管理。

※比較基準年は令和3年度実績

◆2022年からの3ヶ年計画

項目	単位	2021年実績	2022年目標	2023年目標	2024目標
CO ₂ 排出量の抑制 受注1件当たり	kg-CO ₂	31.1	30.8 (-1.0%)	30.5 (-2.0%)	30.2 (-3.0%)
エコ商品購入の促進	%	100	-	-	-
事業系一般廃棄物の 排出量削減	kg	1211	1198.9 (-1.0%)	1186.8 (-2.0%)	1174.7 (-3.0%)
水の使用量の抑制 受注1検体あたり	m ³	0.39	0.386 (-1.0%)	0.382 (-2.0%)	0.378 (-3.0%)

購入電力の排出係数については、国が公表する電気事業者毎の排出係数のうち、グリーンシティ
こばやし（2022年度実績）を使用した。調整後排出係数（kg-CO₂/kWh）:0.508

5. 環境経営計画(2023年度)

環境目標項目		取組内容	実施責任者
購入電力	冷暖房の節約	窓の開け閉めで対処できる場合などは、出来るだけエアコンは使わない。始業時、終業時に設定温度の確認を行う。（夏28℃、冬20℃を基準とする。）	大部 園
	電灯，電気機器の節約	クールビズを導入する。 事務所の電灯，分析室の電灯，その他機器は業務に支障がない範囲でこまめに消すように心掛ける。	
ガソリン	ガソリンの使用量削減とエコドライブの実践	車両点検簿を管理する。	宮 原
		移動する際に出来るだけ一台で済むように，乗合を心掛ける。	
		エコドライブを心がけ，燃料効率のよい運転を心掛ける。	
		効率的な採水計画を立て，輸送距離の削減を図る。	
水の使用	水の節約	実験の作業で水を使用する際に，器具等の洗い方を工夫する。	丸 尾
		分析機器の冷却水の使用が最小限となるよう検討する。	
液化石油ガス（LPG）	液化石油ガス（LPG）の節約	給湯器の設定温度を37℃で使用する事を心がける。	岡 原
		給湯器の使用が最小限となるように検討する。	
事業系一般廃棄物	事業系一般廃棄物の削減	廃棄する際は、再利用出来る物が混入されていないかチェックする。	富 田
	AO用紙使用量の削減	裏紙の使用・両面コピーで用紙の使用量削減を図る。	
		資料の共有化で無駄にコピーを増やさないようにする。	
	リサイクルの促進	PET・スチール・アルミ・ダンボールの4種に関しては分別し，リサイクルを行う。数値の管理を行う。	

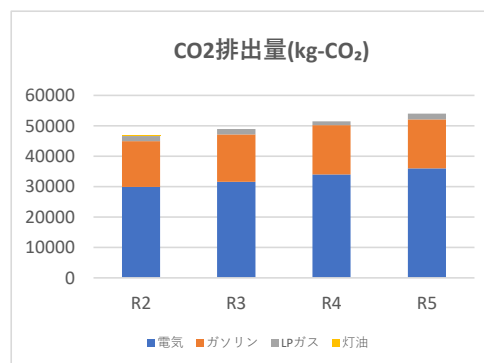
6. 環境経営目標の評価

項目	単位	基準年(2021年)	目標(-2.0%)	実績	変化の割合(%)	評価
CO ₂ 排出量の抑制 受注1件当たり	kg-CO ₂	31.1	30.5	39.7	27	×
エコ商品購入の促進	%	100	100	100	—	○
事業系一般廃棄物の 排出量削減	kg	1,211	1187	842	-29	○
水の使用量の抑制 受注1検体あたり	m ³	0.390	0.382	0.377	-1	○

7. 環境負荷の実績

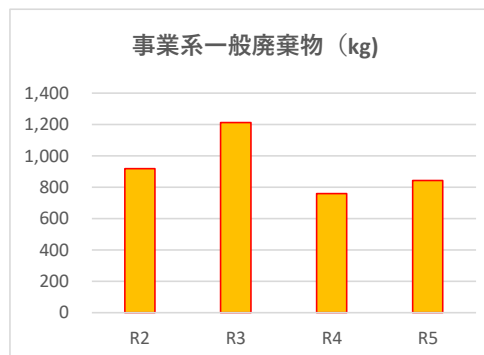
◆CO₂排出量の抑制

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	43,136	45,204	48,497	53,951
ガソリン使用量 (L)	6,466	6,706	6,993	6,912
1検体あたり	5.1	4.6	5.0	5.1
基準年度比		基準年	109	110
LPガス使用量 (kg)	561	600	418	625
1検体あたり	0.44	0.41	0.30	0.46
基準年度比		基準年	73	111
灯油使用量 (L)	14	0	0	0
1検体あたり	0.0	0.0	0.0	0.0
基準年度比		基準年	-	-
電気使用量 (kWh)	58,912	62,123	66,964	70,949
1検体あたり	42.4	44.7	48.2	52.2
基準年度比		基準年	108	117
分析依頼数	1,269	1,452	1,390	1,360



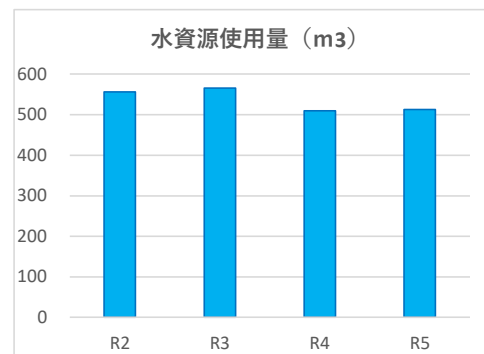
◆事業系一般廃棄物の排出量削減

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
事業系一般廃棄物 (kg)	919	1,211	759	842



◆水の使用量の抑制

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
水資源使用量 (m ³)	556	566	510	513
1検体あたり		0.41	0.37	0.38
基準年度比		基準年	90	93



8. 環境経営計画の評価

環境目標項目		取組内容	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	年間	実施責任者
購入電力について	冷暖房の節約	窓の開け閉めで対処できる場合などは、出来るだけエアコンは使わない。始業時、終業時に設定温度の確認を行う。（夏28℃、冬20℃を基準とする。）	○	○	×	○	○	大部園
	電灯、電気機器の節約	クールビズを導入する。	—	—	○	—	○	
		事務所の電灯、分析室の電灯、その他機器は業務に支障がない範囲でこまめに消すように心掛ける。	○	○	○	○	○	
ガソリンについて	ガソリンの使用量削減とエコドライブの実践	車両点検簿を管理する。	○	○	○	○	○	宮原
		移動する際に出来るだけ一台で済むように、乗合を心掛ける。	○	○	○	○	○	
		エコドライブを心がけ、燃料効率のよい運転を心掛ける。	○	○	○	○	○	
		効率的な採水計画を立て、輸送距離の削減を図る。	○	○	○	○	○	
水の使用について	水の節約	実験の作業で水を使用する際に、器具等の洗い方を工夫する。	○	○	○	○	○	丸尾
		分析機器の冷却水の使用が最小限となるよう検討する。	○	○	○	○	○	
液化石油ガス（LPG）について	液化石油ガス（LPG）の節約	給湯器の設定温度を37℃で使用する事を心がける。	○	○	○	○	○	岡原
		給湯器の使用が最小限となるように検討する。	○	○	○	○	○	
事業系一般廃棄物について	事業系一般廃棄物の削減	廃棄する際は、再利用出来る物が混入されていないかチェックする。	○	○	○	○	○	富田
	AO用紙使用量の削減	裏紙の使用・両面コピーで用紙の使用量削減を図る。	○	○	○	○	○	
		資料の共有化で無駄にコピーを増やさないようにする。	○	○	○	○	○	
	リサイクルの促進	PET・スチール・アルミ・ダンボールの4種に関しては分別し、リサイクルを行う。数値の管理を行う。	○	○	○	○	○	

9. 環境負荷及び活動結果について

◆環境負荷について

当社の場合、主要業務が環境分析／化学物質分析であり、客先での測定業務以外は事務所における事務業務、分析業務が主な業務となる。令和4年の環境負荷について環境負荷の実績をもとに考察すると、CO2排出量は26%の増加であり、電気使用量とガソリン使用量が特に寄与が大きな要素と考えられる。

その他、事業活動に伴う化学物質の取扱いや分析、洗浄にともなう廃液なども環境負荷が高いが（P R T R法に該当する化学物質を常時30～40種ほど保有している）、法規制に該当するほどの量を取り扱っておらず、また取扱い手順ならびに教育も施しているため、数値的な目標設定から外している。廃水や廃棄物については排出量を管理し、処理業者に処理を委託している。排出が不定期の為、目標設定から外している。

以下、各項目について、環境負荷の実績と環境活動について考察する。

◆電気使用量

令和4年、令和5年と比較して、今年の電気使用量は、6月から増加している月が多かった。ICP-MSの導入が令和4年9月から始まり工事が6月頃から入ってましたので電気使用量が増加したと考えてます。前年度と比較して電気使用量は上がってる月がありますが目標値とそこまで差はないので令和6年に向けて節電節約を意識して行動してもらうように声掛けや節約のための案などを出していくように努めます。

[担当 大部 蘭]

◆LPガス使用量

今年度は2021年度と比較してガス使用量が減少し、目標値を達成することが出来ました。LPガスは主に分析器具や容器の洗浄、試料の調整時にお湯を沸かすために使用し、特に10月から3月にかけて使用量が増加し、夏場の使用はほとんど見られません。今年度は冬場の使用量が減少しており、通年を通して目標を達成した月が多かったです。来年度も継続できるようにしていきたいと思います。

[担当 岡原]

◆ガソリン使用量

ガソリンの使用は、車の使用に由来する。令和4年は令和3年と比較すると1.04倍となり増加した。原因として遠方の現場が増加したことが大きいと思われる。月別にみると目標は達成できていない月が多いが令和3年より削減出来ている月がある。エアコン使用の対策や効率的な採水計画が出来たと考えられる。

次に、燃費（走行距離／ガソリン量）は令和3年が14.5km/L、令和3年は17.3km/Lとなり、前年よりも良い結果となった。

本年は、エコドライブの以下の2点を文書などで全員に周知し、重点的に取り組んだ。

○タイヤの空気圧から始める点検・整備

○走行の妨げとなる駐車はやめよう

以上の事から、エコドライブを重点的に取り組めた事によって、使用量の削減に繋がったと思われる。また、前年同様に最少車両でサンプリングに行くことができ、効率の良いサンプリングができたと思われる。

各車の走行距離と燃費は次の通りである。

ワゴン車走行距離・燃費		バン①車走行距離・燃費		小型車走行距離・燃費		ハイブリット車走行距離・燃費		バン②車走行距離・燃費	
走行距離 (km)	燃費 (km/L)	走行距離 (km)	燃費 (km/L)	走行距離 (km)	燃費 (km/L)	走行距離 (km)	燃費 (km/L)	走行距離 (km)	燃費 (km/L)
2346	18.9	1515	10.2	1302	18.7	1732	19.3	1358	19.6

令和5年も同様にエコドライブ項目の以下の2点をより重点的に取り組み、使用量の削減に努める。また、今まで通り走行距離を把握し、乗り合わせや採水ルートの改善を行う。

○エアコンの使用は適切に

○タイヤの空気圧から始める点検・整備

◆灯油使用量

使用目的は事務所の暖房設備である。2019年の建屋改装でエアコンに移行したことによって概ね使用する事がなくなった。目標に掲げてある室温20℃を厳守し、温度管理の徹底を図れたと思われる。 [担当 宮原]

◆水道使用量

今年度の水道水使用量は目標値を達成することができた。月別で見ると水道使用量が高い月もあったが、基準年と比較して減少傾向だった。水道使用量が高い理由としては、純水製造装置の入れ替えにより、純水の使用量が増えたことや、夏場のスプリンクラーの使用が考えられる。

[担当 丸尾]

◆産業廃棄物

廃水は、検査時に発生する廃酸・廃アルカリと排水基準値を超過した検体があり、分析由来の水が大半を占める。本年度は廃酸・強酸・廃アルカリに関して5月及び12月に回収を依頼し、ドラムで廃酸計9本、強酸計9本、廃アルカリ計2本の処理を行った。今年度の廃水排出量は昨年度の2倍量となっている。廃棄物分析の業務量が増加したことが要因と思われる。

廃プラ、ガラスくず等に関しては大部分が検査業務から発生し、試薬や器具類が主となる。本年度はガラスくずに関して4月及び12月に、廃プラに関して5月及び12月に回収を依頼し、ガラスくず計270kg、廃プラ計30kgの処理を行った。金属くずは回収依頼をかける程の量がなく、事業所内保管となっている。

廃水その他の廃棄物排出量は業務量に左右されるため、現状より抑制することは難しいが、各分析担当者が適正な処理に努めるとともに、今後も廃棄物が発生することを意識するよう心掛けていきたい。 [担当 富田]

◆事業系一般廃棄物

本年度前半は昨年度まで保管されていた書類や室内備品等の一斉整理を行ったため排出量は増加したが、通常月は落ち着いており排出量は一定となった。突発的に排出量が増加した時期もあるが、台風による影響の後片付けから発生する木くずや飛来物のためと思われる。

廃棄する書類関係は業務量に応じて増減する。現段階で裏紙を再利用するなど最大限工夫はしているが、現状以上のさらなる抑制は難しい。しかし、日常の事業系一般廃棄物量に関しては当番制で収集と廃棄量の記録を行っており、各個人の意識付けはなされているため、引き続き少しでも廃棄量が減少するよう努めていきたい。

[担当 富田]

10. 環境経営計画(2024年度)

環境目標項目		取組内容	実施責任者
購入電力	冷暖房の節約	窓の開け閉めで対処できる場合などは、出来るだけエアコンは使わない。始業時、終業時に設定温度の確認を行う。（夏28℃、冬20℃を基準とする。）	大部 蘭
	電灯、電気機器の節約	パソコン使わないときは電源を消すようにする。	
		事務所の電灯、分析室の電灯、その他機器は業務に支障がない範囲でこまめに消すように心掛ける。	
ガソリン	ガソリンの使用量削減とエコドライブの実践	車両点検簿を管理する。	宮 原
		エアコンの使用は適切になるよう呼び掛ける。	
		タイヤの空気圧について、点検と整備を行う。	
		効率的な採水計画を立て、輸送距離の削減を図る。	
水の使用	水の節約	実験の作業で水を使用する際に、器具等の洗い方を工夫する。	丸 尾
		分析機器の冷却水の使用が最小限となるよう検討する。	
液化石油ガス（LPG）	液化石油ガス（LPG）の節約	給湯器の設定温度を37℃で使用する事を心がける。	岡 原
		給湯器の使用が最小限となるように検討する。	
事業系一般廃棄物	事業系一般廃棄物の削減	廃棄する際は、再利用出来る物が混入されていないかチェックする。	富 田
	AO用紙使用量の削減	裏紙の使用・両面コピーで用紙の使用量削減を図る。	
		資料の共有化で無駄にコピーを増やさないようにする。	
	リサイクルの促進	PET・スチール・アルミ・ダンボールの4種に関しては分別し、リサイクルを行う。数値の管理を行う。	

11. 法規違反・訴訟および環境への取組評価

2022年度における関連法規への違反，訴訟については以下の通りであった。

関係当局より違反等の指摘はありません。

各方面からの訴訟等はありません。

地域からの苦情は，確認されていません。

法規名	該当する要求事項	評価
廃棄物処理法	委託契約の締結	順守
	マニフェストの交付、保管義務	順守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告	順守
	保管場所の掲示	順守
水質汚濁防止法	特定施設の届出	順守
化学物質排出把握管理促進法	SDSの取得・管理	順守
	指定物質の管理	順守
毒物及び劇物取締法	薬品の保管・施錠管理・適正表示	順守
	SDSの取得・管理	順守
フロン排出抑制法	簡易点検の実施	順守
浄化槽法	法定検査の実施、記録の保管	順守

12. 環境への取組結果を受けての経営者による全体の評価

今回は、令和3年に掲げた3ヶ年計画の環境目標設定の2年目の年になります。本年は社員の増員もあり、CO2排出量は厳しい結果となっています。電気の使用量が特に増加している点が大きな要因となっていますが、ICP-MSの導入などで電気使用量が増加した分、分析項目の中では一斉測定ができるようになり、業務の省力化が図れています。その省力化の効果を電気使用量に転嫁できていない理由等も考えてみてください。また、各項目に着目すると、一般廃棄物排出量や水道使用量は減少傾向であり、社員同士で協力してエコアクションに取り組んでくれているようです。業務内容も入札次第で各年で変化していきなかなか経年での評価が難しいと思いますが、古くなった機器を省エネ型の製品に入れ替えるなどいろいろな取組みを行っていきましょう。

◆見直し結果

環境経営方針

→変更なし

環境経営目標及び環境経営計画

→変更なし

実施体制

→変更なし